

**留学先国名** : アメリカ

**留学先学校名** : Sweet Spring R7

**留学期間** : 平成 27 年 8 月 21 日～平成 28 年 6 月 11 日

私はアメリカのミズーリ州スウィートスプリングスという町で 10 ヶ月間を過ごしました。ここは日本の生活からは正反対のようなところでした。そこらじゅうに牛や馬がいて、コーン畑が広がっているところでした。ホストファミリーも「アメリカの家」のイメージとは全く違う人たちでした。テーブルがなく、ソファーに座って食事をしたり、日曜日は寝室に籠ってベッドに寝転がりながらテレビをひたすら見ていたり。時々日本の家との違いに戸惑うことや、不便に感じることもありましたが、普通に生活はできました。

私が今回の留学で得た一番の収穫は、日本でずっと生活していたらきっと出会えなかったと思う様々なタイプの人々との出会いです。

まず去年の十月に、人生で初めて結婚式に参加しました。日本で結婚式というと、教会や神社で行われるものを想像しますが、今回は広大な家の庭で、藁の塊を並べて参列者の椅子にしたりするアメリカの農村ならではのものでした。それだけでも新鮮な体験ですが、この結婚式は実は女性二人の同性愛カップルのものでした。後で私のホストママから聞いたのですが、彼女たちの親戚の一部は同性同士の結婚を「認めない」と、結婚式に来なかったそうです。私はその時はまだ何も彼女たちについては知りませんでした。式を見ているととても幸せな気持ちになり、少し涙が出てきました。

スウィートスプリングスには高校は一つしかありません。それでも私が知る限りカミングアウトしているゲイの男の子が一人いました。アメリカのドラマ「Glee」の中では頻りに同性カップルの話や、LGBT のテーマが扱われていました。そのドラマで LGBT の人たちの存在は知っていたけれど実際に私の知人の中にはいなかった。なので、これらの人たちに会えたことで実感しました。

また、この地域は農業が盛んです。若い子たちは早く都会に行きたいと思っている人が多いのかと思っただけでもなく、農業の仕事を誇りに思っている人が多くてとてもびっくりしました。ウエスタンブーツはほぼみんな持っていて、夏でも毎日履いてくる男の子や、プロムのドレスに合わせて履いてくる女の子もいます。Facebook を見ていると、農業に関することを沢山シェアしていたり、授業中にトラクターの種類を調べている子もいました。とても興味深かったです。

人によって考え方は全く違うし、住む場所や文化もそれに関わってくるということを実感しました。日本で生まれ育ったので、銃は身の回りであったことも触れたこともありませんでした。アメリカで起こる銃の事件を良く聞くとアメリカも銃を規制して、持てはいけないことにしたらそんな事件は減るんじゃないの？ と思っていました。しかし、向こうの人は銃を持っていなかったら殺される、銃を持っていれば反撃が出来るから生きられる可能性がある と言っていました。あくまでも防衛の為に持っていると言っていました。

学校では、意外と人種に関する話題が上がります。ある男の子はジョークでけなすような意味合いで Jewish とよく使っていたのを覚えています。先生が注意すると「ここには Jewish はいないから大丈夫だ

よ」と言っていました。私は Jewish ではないけれど、アジア人で Minority の一部なので少し複雑でした。高校では差別をされたことはなかったけれど、スクールバスの小学 1、2 年生の子たちに嘲笑されたり、yellow monkey と言われたりすることがありました。まさかあんな小さなかわいい子供たちが日本人・アジア人に対する差別用語を知っているとは思わなくてとてもショックをうけました。

私のいた町はとても小さく、人口が約 1600 人と、私の大阪にある学校の生徒数ほどしかない町でした。小さい町だからこそ良かったこともあります。高校にいる人たちをほぼ知っていたし、私が名前を知らない相手が私の名前を知っていることもありました。また、行事になるとそれぞれの親が協力していたり、先生たちが生徒に交じて楽しんでいたりとても暖かかったです。

ひとくりに「アメリカ人」と言っても様々な人がいます。人種も宗教も、生活も何もかも違います。それぞれに違う感性を持っていることはあたりまえです。アメリカで生活していた中でたくさんの今まで出会った事のないような人々に出会いました。その中で、自分が「黄色人種」であることも実感しました。たくさんの個性に触れているいろいろな発見が出来ておもしろかったし、それぞれに違いがあることは素晴らしいことです。何か私自身に不都合なことや、不思議に思うことが起こっても一概に否定するのではなくその人のことも考え、一つの個性として認めて受け入れることが大切である、と気づきました。

正直に言うと、楽しいことよりもつらかった事の方が多岐に及ぶ気がしますが、そんな辛さも今ではいい経験になったのではないかと思います。まだ 18 年ほどしか生きていないし、これからもたくさん大変なことは起こると思います。自分の将来に向けてタフになれたことは良いことだと思います。また、私の英語力はまだまだ完璧には程遠いので、これからも勉強してネイティブ並みにになりたいです。旅行が好きなので、お金をためているいろいろな所に行きたいと思っていますが、その時には本当に様々な人に出会うと思います。不快な思いをすることもあるかもしれないです。しかし、いつでも違う文化を尊敬してたくさん良いところを吸収して行きたいと思っています。また、日本の駅などで道に迷っていたり困っている海外の旅行者の方々を助けられたらいいなと思っています。私が行き方を知らなくても、代わりに行き方を聞いてその方に伝えることはできます。

最後に、これから留学に行く人には、とりあえず挑戦したいと思ったことはやってみてほしいです。私はなかなかこれが出来なくて、勇気を出して挑戦しようとしたら学校の都合などでできなかったことも多々ありますが……。アメリカは日本よりも自分を出さないといけない国です。挑戦してみたい？と言われるのを待っている、時間だけが過ぎてしまいます。恥ずかしいなあ、と思ったら「ここに一生住むわけじゃないし、誰も何も気にしない」と試してみるといいかもしれません。また私は、普通のカレンダータイプも、一週毎タイプ両方のシンプルなスケジュール帳を 2 種類買って行き、そこにいろいろと出来事や感想・日記などを書いていました。カレンダータイプの方には絵心など一ミリありませんが、出来事を絵でかいてみたりしました。結構楽しかったし、ずっと残すことができます。驚いたことや新しい発見などもそのノートに書き込みました。とてもおすすめです。